

自治体名	岡山県
------	-----

女性の健康支援対策の概要

平成20年度から実施している「岡山県乳がん・子宮がん検診受診促進事業」に加え、今年度はさらに、県内9カ所の保健所・支所において若い世代や職域保健と連携として「乳がん予防出前講座」を行いがん予防の知識の普及啓発を行うとともに、「乳がん月間（10月）」を全県的な普及啓発推進月間として「受けようマンモグラフィキャンペーン」を各保健所・支所管内でスーパーマーケットやイベント等の会場で展開するとともに、企業等との連携による普及啓発活動も実施した。

また、女性の健康課題や住民の視点による事業の企画・立案を行うために、有識者や専門家の他、患者会の代表者等を委員として企画・評価委員会を設置し、より効果的な事業実施のため協議を行い、事業を開催した。セミナーは、1会場は若い世代を対象とするために大学と連携を図り開催し、2会場については一般（主に中高年世代）を対象とし開催した。意識の変化や事業評価を行うためにセミナーや健康チェックの体験前後にアンケート調査を行った。

自治体の特徴

岡山県は、山陽道の中央に位置し、東は兵庫県、西は広島県に隣接し、南は昔より水運に恵まれた瀬戸内海に臨んで四国に、北は山陰地方と接し、中国地方の交通の要衝として古くから重要な位置にある。

全国平均より高い平均寿命を誇る一方、全国と同様に出生数が減少しており、少子高齢化の進行に伴う若年人口の減少や高齢者世帯の増加がみられる。

人口構成・(H21.10.1現在)

	総数	男	女
人	1,943,655	932,250	1,011,405
割合(%)			

15歳未満	267,983	137,855	130,128
15～64歳	1,184,210	586,874	597,336
65歳以上	235,561	110,371	125,190
75歳以上	176,122	72,930	103,192
85歳以上	69,697	18,743	50,954

女性に関する健康課題

岡山県では、がんによる死亡数は年々増加し、昭和57年以降がんは死亡原因の第一位であり、がん対策は県民の生命及び健康にとって大きな課題である。

特に、女性のがんでは、子宮がんは20歳代から、乳がんは30歳代から罹患する人が多くなっており、早急な対策が必要となっていることから、平成20年度に「乳がん検診の実施状況等実態調査」を行い受診者にとって利便性が良かつ精度の高い検診の実施体制を検討し、受診率向上を図るための実態調査を行なったところである。

分析の結果から、受診率向上のためには、普及啓発が必要不可欠で、受ける側の意識をあげることが大切であることが明らかになった。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	3,000
(2) 中高年期における健康支援事業	7,000
(3) 女性のがん支援事業	(単県分) 1,226
計	10,000

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	「女性の健康支援対策事業」女性が自分自身の健康づくりを実践出来るよう支援する
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 ■健康相談
事業費（千円）	3,000千円

事業目的

生涯を通じた健康づくりを女性本人が実践できるよう、女子大学生に対して普及啓発を行い意識の向上を図るとともに、「セミナー」を開催し、講演による知識の伝達、骨密度測定やHPVチェック等の実体験による検診の大切さと受診しやすさを認識することにより今後の行動変容につなげ、健康づくりを推進する。

講演内容は、特に若い女性の健康問題についてふれるとともに、自分の健康は自分自身で管理をする意識を持つように設定した。

事業対象

岡山県岡山市にあるA大学の女子大学生等223名

事業実施体制・展開

- ① 評価・企画委員会による内容の検討と事業の評価
- ② セミナーの開催（1会場）
 - 若い世代（女子大学生）を対象にしたセミナーの開催（1会場）
 - 講演による知識の普及啓発、骨密度測定、HPVチェックによる子宮頸がんの普及啓発、乳がん視触診モデルによる乳がん予防の普及啓発
- ③ セミナーの前後にアンケート調査を行い、健康意識等の把握と講演と実体験の前後での知識の変化等を調べた

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 参加者の満足度 講話 参加者 223人 ……大変参考になった、参考になった 122/140*(87.1%)
- ② 参加者の満足度 HPVチェック 体験者 194人 ……よかった 82/140*(58.6%)
- ③ 参加者の満足度 骨密度検査 体験者 217人 ……よかった 109/140*(77.9%)
- ④ 今後の受診行動の変化について
 - がん検診 …… 受診したい 104/140*(74.3%)
 - 子宮がん検診 …… 受診したい 103/140*(73.5%)

*アンケート調査に協力が得られた人数 140人
- ⑤ 知識の普及啓発（正解率の変化）
 - セミナー前 正解率 平均 72.1%
 - セミナー後 正解率 平均 84.8%

事業の工夫点

若い世代を対象にセミナーを開催するにあたり、大学と連携をし、授業の一環としてセミナーを入れてもらい、女子学生の多い学部 of 学生を対象とした。

事業の効果についての評価・考察

生涯を通じた女性の健康づくりの支援につながったかという観点から、セミナーの開催について評価した。

①知識の普及について

大学生を対象としたセミナーの前後に行ったアンケート調査の結果から、15問中13問において正解率が上がったことから、セミナーの講演で知識の普及啓発を行うことは成果があったといえる。「子宮頸がんの予防にワクチンは有効である」という項目については、セミナー前32%からセミナー後82%に正解率が上がったことを見ても、学生が受講前にはなかった知識を得られたことが分かる。

②セミナーの開催、健康チェックについて

講話については、大学生で87.1%が「大変参考になった、参考になった」と回答していることから、①での知識の普及につながったと思われる。また、HPVチェックについては58.6%が「よかった」、骨密度測定については、77.9%が「よかった」と回答したことから、実体験をすることは、自分自身の体の状態を知る事でもあり、大変有効であったといえる。

③今後の検診受診について

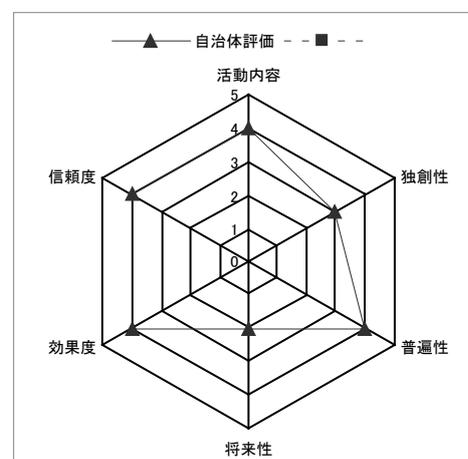
乳がん検診については、74.3%が「受診したい」、子宮がん検診については73.6%が「受診したい」と回答していることから、今後の受診行動につながり、学生のこれからの健康づくりにつながったと言える。

今後の課題

この度は、県内の1大学のみとの連携で開催した。実施した会場の参加者は、アンケート調査の結果からもほとんどの方が「大変参考になった、参考になった」と回答しており、今後の検診受診についても大学生で7割強の人が受診したいと回答しているので、このような事業を県内の他の大学とも連携して実施することが出来れば、受診率の向上にもつながり、女性本人の健康づくりにも資することが出来ると思われるため、若い世代からの健康づくり支援を行うためには大学との連携は有効であると思われる。

ホームページ	準備中
照会先	岡山県保健福祉部健康推進課 直通電話(086)226-7328

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	企画評価委員会で内容の検討を行い、参加者の健康づくりに役立つものとなった
②独創性	3	講演会、健康チェック自体は独創的なものではないが、組み合わせや参加しやすい日曜日の設定などは独自である
③普遍性	4	この内容で事業を実施することは、県下の市町村で可能であると思われる
④将来性	2	予算措置が必要となるため、財政状況に左右されると思われる
⑤効果度	4	参加者への効果はアンケートのから結果から読み取れるし、参加者から家族等への波及も期待できると思われる
⑥信頼度	4	健康チェックは、検診と同じ機器やキットを使用しており、データ等は信頼できる



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	「女性の健康支援対策事業」女性が自分自身の健康づくりを実践出来るよう支援する
分野	■知識の提供 □健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	7,000千円

事業目的

生涯を通じた健康づくりを女性本人が実践できるよう、女性一般に対して普及啓発を行い意識の向上を図るとともに「セミナー」を開催し、講演による知識の伝達、骨密度測定やHPVチェック、マンモグラフィチェック等の実体験による検診の大切さと受診しやすさを認識することにより今後の行動変容につなげ、健康づくりを推進する。

講演内容は、特に女性に関する健康課題を重点的にふれるとともに、がん患者本人の体験談も内容に加え、検診の重要性や自分の健康は自分自身で管理する意識を持つように設定した。

事業対象

岡山市内と周辺地域及び井笠地域の中高年を中心とした女性

事業実施体制・展開

- ① 評価・企画委員会による内容の検討と事業の評価
- ② セミナーの開催（2会場）
 - 中高年を対象にしたセミナーの開催（2会場）
 - 講演による知識の普及啓発、骨密度測定、HPVチェックによる子宮頸がんの普及啓発、マンモグラフィチェックによる乳がん予防の普及啓発
 - がん患者の体験談を入れることにより、より自分のこととして意識できるようにするとともに、個別に相談できる場を設ける
- ③ セミナーの前後にアンケート調査を行い、健康意識等の把握と講演と実体験の前後での知識の変化等を調べた

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 参加者の満足度 講話 参加者 254人・・・大変参考になった、参考になった 236/247*(95.6%)
 - ② 参加者の満足度 HPVチェック 体験者 243人・・・よかった 209/247*(84.6%)
 - ③ 参加者の満足度 骨密度検査 体験者 252人・・・よかった 235/247*(95.1%)
 - ④ 参加者の満足度 マンモグラフィ 体験者人 203人・・・よかった 199/247*(80.6%)
 - ④ 今後の受診行動の変化について
 - がん検診・・・受診したい 238/247*(96.3%)
 - 子宮がん検診・・・受診したい 223/247*(90.3%)
- *アンケート調査に協力が得られた人数 247人
- ⑤ 知識の普及啓発（正解率の変化）
 - セミナー前 正解率 平均 70.4%
 - セミナー後 正解率 平均 82.2%

事業の工夫点

・セミナーの開催を開催するにあたり企業等に働きかけ、日頃検診の機会の少ない職域の人にも参加を促すようにした。また、ケーブルテレビ、新聞の折込チラシ等での広報ともに、学校を通じて保護者にチラシを配布し参加者を募った。

・乳がん体験者による体験談や相談会もセミナーに併せて実施した。

事業の効果についての評価・考察

生涯を通じた女性の健康づくりの支援につながったかという観点から、セミナーの開催について評価した。

①知識の普及について

A会場は15問中12問、B会場では15問中13問において正解率が上がり、正解率の平均も70.4%から82.2%にあがったことから講演の内容は十分理解され、知識の普及につながったといえる。

②セミナーの開催、健康チェックについて

講話については、95.6%が「大変参考になった、参考になった」と回答しており、講演内容が参加者の意向にそったものであったといえる。また、HPVチェックは84.6%が「よかった」、骨密度測定は95.1%が「よかった」、マンモグラフィチェックは80.6%が「よかった」と回答しており、実際に健康チェックを体験することは、自分自身の体の状態を知ることでもあり、大変有効であった。

③今後の検診受診について

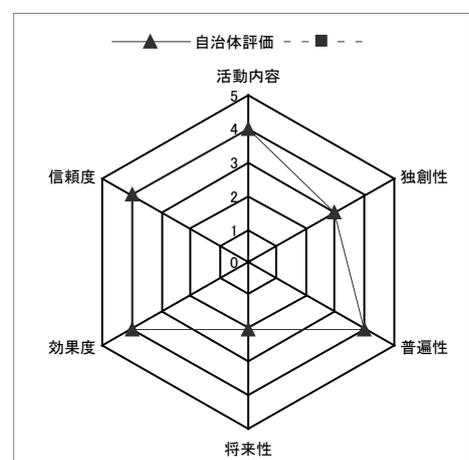
乳がん検診について96.3%が「受診したい」、子宮がん検診について90.3%が「受診したい」と回答しており、このセミナーや健康チェックを受けることで、今後の受診行動につながったといえる。

今後の課題

この度の事業は、県内で2会場のみで開催であった。実施した会場の参加者は、アンケート調査の結果からもほとんどの人が「大変参考になった、参考になった」と回答しており、今後の検診受診についても9割強の人が受診したいと回答しているため、このような事業を県内の全市町村で実施することが出来れば、受診率の向上にもつながり、女性本人の健康づくりにも資することが出来ると思われるため、今後は手法について県内関係機関等に普及啓発をしていく必要がある。

ホームページ	準備中
照会先	岡山県保健福祉部健康推進課 直通電話(086)226-7328

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	企画評価委員会で内容の検討を行い、参加者の健康づくりに役立つものとなった
②独創性	3	講演会、健康チェック自体は独創的なものではないが、組み合わせや参加しやすい日曜日の設定などは独自である
③普遍性	4	この内容で事業を実施することは、県下の市町村で可能であると思われる
④将来性	2	予算措置が必要となるため、財政状況に左右されると思われる
⑤効果度	4	参加者への効果はアンケートの結果から読み取れるし、参加者から家族等への波及も期待できると思われる
⑥信頼度	4	健康チェックは、検診と同じ機器やキットを使用しており、データ等は信頼できる



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	「女性の健康支援対策事業」女性が自分自身の健康づくりを実践出来るよう支援する
分野	■知識の提供 □健康相談 ■情報提供
事業費（千円）	1, 2 2 6 千円（単県分）

事業目的

生涯を通じた健康づくりを女性本人が実践できるよう、女性一般に対して普及啓発を行い意識の向上を図るとともに、「乳がん出前講座」や乳がん月間キャンペーンを開催し、検診の大切さと受診しやすさを認識することにより今後の行動変容につなげ、健康づくりを推進する。

事業対象

県内の女性一般

事業実施体制・展開

- ① 評価・企画委員会による内容の検討と事業の評価
平成 21 年度中の事業全般について、効果的な実施方法・内容・対象等について検討するとともに、実施後は事業の評価を行った。
- ② 「乳がん月間」に合わせ「受けようマンモグラフィキャンペーン」を県内各所で行い、広く一般県民への普及啓発を行った。
- ③ 美容生活衛生同業組合や金融機関等の一般企業との連携により、チラシの配布、ポスターの掲示等を行い、検診の受診勧奨を協働で進めた。
- ④ 「乳がん出前講座」を幼稚園等の保護者や、旅館のおかみさん会等の女性を対象に実施し、知識の普及、受診勧奨を図った。

事業目標・評価項目 及び その結果

広く一般の人を対象に女性のがんについての予防について普及を行う。

多くの関係機関と連携が図られたか。

- ① 「受けようマンモグラフィキャンペーン」県内 6ヶ所 1,600 人対象
各市町村等で広報誌、ちらしでの普及啓発 約 80,000 枚配布
- ② 美容生活衛生同業組合 1,414 店舗にポスターとリーフレットを配布し、掲示と閲覧の実施
- ③ 金融機関、生命保険会社等企業との連携により、リーフレットを配布 約 15,000 枚
- ④ 乳がん出前講座 5回開催 317 人参加

事業の工夫点

- ・企業等との連携により、普及啓発を行った。
- ・乳がん予防出前講座の開催等についても、若い世代を捕まえるために幼稚園等との連携により開催した。

事業の効果についての評価・考察

・一般への普及啓発について

乳がん月間に合わせて、県内の各地域において「受けようマンモグラフィキャンペーン」を女性が多く利用するスーパーマーケットやイベント等でチラシを配ったり、乳がんの視触診モデルを用いて、自己検診を体験してもらったりし、乳がんの知識の普及と受診の大切さを普及した。多くの人が集まる場でキャンペーンを行うことで、日頃関心の薄い人にも普及啓発が出来、効果的であると思われる。

・乳がん予防出前講座

日頃、検診等にあまり関心のない女性や若い世代の女性に対して普及啓発を行うために、幼稚園、若妻会、旅館の女将さん会等を対象とし、現地に出向いて出前講座を行った。現地に出向くことで、日頃関心のない女性や若い女性に検診や自己検診等の大切さを伝えることが出来、今後の受診行動につながると考えられる。

今後の課題

この事業は、県内の保健所・支所で行っており地域の実情に合わせて、実施している。乳がん月間も県内では、定着しており、「受けようマンモグラフィキャンペーン」も各地で行われているが、全保健所、支所で実施することが出来るようになることが課題である。

また、乳がん出前講座も受講者からは、大変好評を得ているので、今後回数が増えるような予算措置等が必要である。

ホームページ	準備中
照会先	岡山県保健福祉部健康推進課 直通電話（０８６）２２６－７３２８

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4	企画評価委員会で内容の検討を行い、参加者の健康づくりに役立つものとなった
②独創性	4	出前講座の連携先など女性の多い職場や機関など工夫がみられる
③普遍性	4	この内容で事業を実施することは、可能であると思われる
④将来性	4	受診促進のためには、無関心層への働きかけが必要であるので、普及啓発は今後とも行わなければならない
⑤効果度	3	参加者の人数等でしか評価出来ていない
⑥信頼度	3	キャンペーン等での普及啓発は、その後の行動変容につながるかが把握できない、

